深田神社春祭に伴う芸能（田打）

【所　在　地】いちき串木野市下名 20967（深田神社ガウンガウン祭保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日

深田神社の春祭は「ガウンガウン祭」といい，旧暦２月２日に行われていたが，現在はその前後の日曜日に行われる。神事がすむと，テチョ（父）が大きな木のカギ鍬で，境内を田にみなして田打をはじめる。子どもたちもこれに加わる。テチョは太郎・次郎に牛をひいてこさせる。親子の即興的な話はいつ聞いても，腹の底から笑いがこみあげる。やがて面をつけたコッテ（雄牛）が人参のふぐりをぶらぶらさせてあばれ出す。見物人はさけび声をあげて逃げまわる。広い境内から裏の松林へと，ひととき田園劇の人波と笑いとさけびが渦をまく。このあと牛にモガ（馬鍬）をひかせて田をならし，氏子が松葉をまきちらせて田植は終る。田打の行事と見物人がひとつになった善良な笑いには，遠いむかしの田遊びのにおいを残している。

春祭り農耕予祝の代表的なものである。演劇的要素の濃い点に特色がある。